

コロナ禍におけるこども食堂の存在意義 ～ひみキトキトこども食堂ネットワークの挑戦～

コロナ禍により、会食型でのこども食堂が実施できない中、自分たちに何ができるのかを考え、新たなカタチを創造し実践したこども食堂の取り組みをご紹介します。

地域を繋ぐ懸け橋に！ コロナ禍における こども食堂の存在意義 ～ひみキトキトこども食堂ネットワークの挑戦～



目的 - コロナ禍の中でも、持続可能なこども食堂のあり方を探り実践する

背景 - コロナ禍によって、複合的に困窮する子を持つ世帯が増加している

課題 今までのやり方では実施できない

- ・新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から会食型でのこども食堂の実施不可
- ・こどもたちの様子が分からなくなる
- ・地域における居場所の減少



期待 活動を通し新たな繋がりが生まれる

- ・地域の繋がりを強くすることができる
- ・こども食堂の新規開設



問題 - どのようにして、こども食堂を展開していくか

問題① 提供方法

会食型では感染リスクが高まり安全に食を提供できない



問題② スタッフの確保

活動に賛同してくれる人材をどうやって見つけるか



方法 - あらゆる資源を融合させ、新たな力を生み出す

工夫① キッチンカーを利用 インパクト大

調理、運搬することが可能（機能性抜群）衛生面、集客力◎



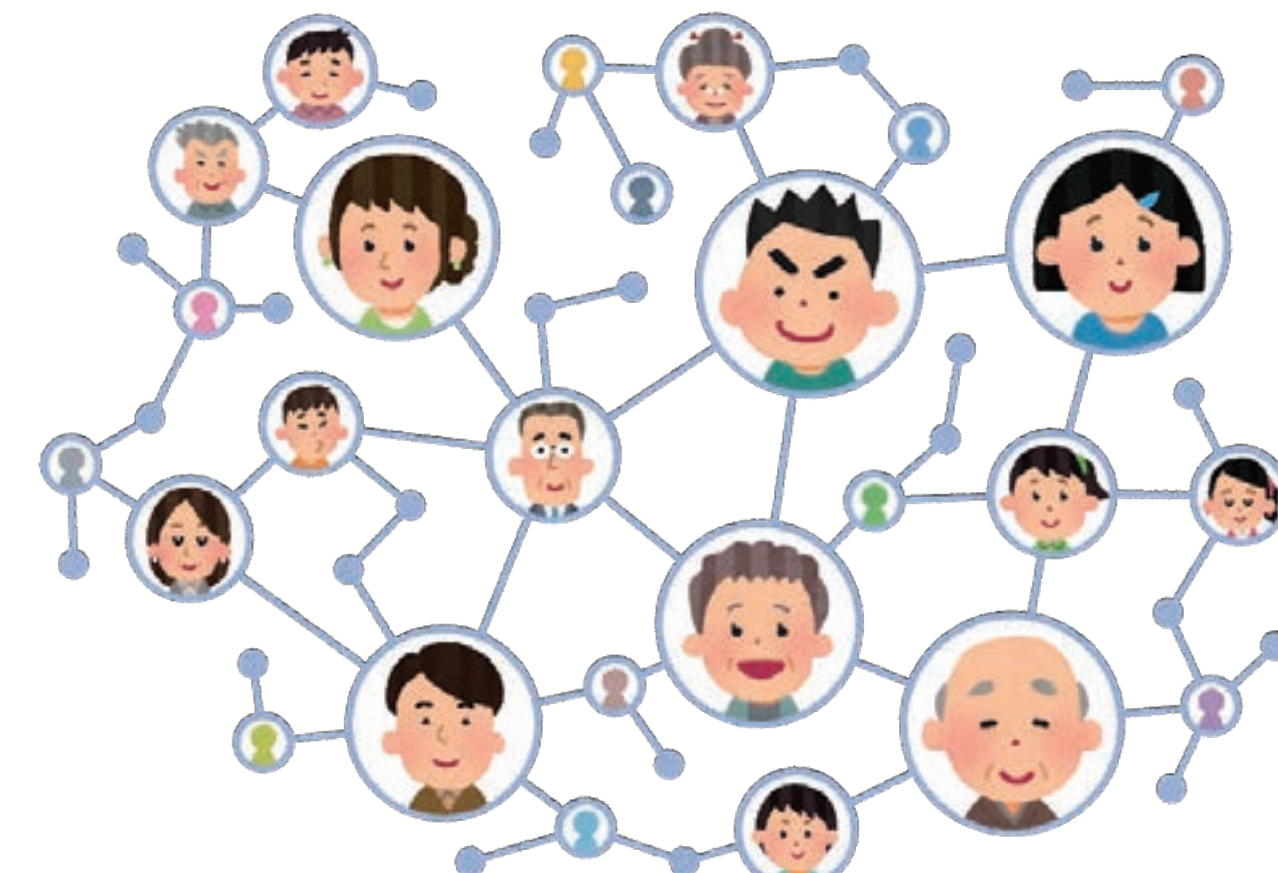
工夫② 拠点は小学校 地域の中心

グラウンド等を利用して、会食型からテイクアウト型のこども食堂へ



工夫③ 地域の人材を活用 繋がる・繋げるチャンス

民生委員や主任児童委員、地区社会福祉協議会等に協力依頼



結果 - 感染リスクを最小限に抑えながらも繋がりは密に

- テイクアウト方式は感染リスクが少なく、多くの利用者へ対応可能
- 気になる家庭の子どもたちが周りの目を気にすることなく利用できる
- 子どもと地域の繋がり、家庭と地域の繋がり、学校と地域の繋がり強化

まとめ - 「できない」ではなく、「できる」ことを創造する

この活動を参考に、市内にある3つのこども食堂は会食型からテイクアウト型に切り替えこども食堂を継続中。利用者は、コロナ禍前と比べ2～3倍増加。また、この活動を機にサポーター（理解者）も増加した。



ピンチをチャンスに！こども食堂はこれからも進化を続ける

